

いぶすきまるごと博物館

vol.169

指宿は、ウミガメの産卵地として知られています。ウミガメは、私たち人類より古くから生息しており、その起源は2億2千万年前と考えられています。また、ウミガメは1億1千万年前から現在とほぼ変わらない形で生息していることから「生きた化石」ともいわれています。

古来から人はウミガメと深い関わりを持っています。沖縄県名護市の大堂原貝塚では縄文時代早期（約7,200年前）、垂水市では終原貝塚で縄文時代後期（約3,500年前）のウミガメの骨が出土していることから、当時はウミガメを食していたと考えられています。また、古代の壱岐や対馬では、ウミガメの甲羅に熱を加えて占いを行う亀卜が行われていました。昨年度、指宿市十町の敷嶺遺跡でも亀トで使われた鉄製甲冑と呼ばれる鉄製の容器が出土しています。これは、政治で重要な決定をする際に亀トが行われたことを示しており、平安時代の指宿においてウミガメと人が関わっていたことが推測されます。

市内にはウミガメにまつわる話が残っています。知林ヶ島と田良岬を結ぶトンボ口（砂州）がある田良浜は、ウミガメの産卵地として有名ですが、一説

指宿とウミガメ

によると「田良」という地名は、元々「多羅」と表記されていて、田良浜にウミガメがよく上陸していたからともいわれています。

人々との生活に密接に関わってきたウミガメも、近年は海洋環境の悪化により、絶滅の危機にひんして、環境省が作成したレッドリスト（絶滅の恐れのある野生生物のリスト）にも掲載されています。6月27日から時遊館COCCOはしむれにて「いぶすきシェルコレ2020—大海原を渡るウミガメ—」を開催しています。昔から愛されてきたウミガメを保護するために何をすべきか今一度考えてみましょう。

図歴史文化課文化財係 ☎ 5100



▲上陸したアカウミガメ（環境政策課写真提供）

ベルの台湾通信 Vol.4

皆さん、お元気ですか？4カ月ぶりのベルの台湾通信です。実は今回が最終回です。7月末で、私は国際観光推進員としての任期を終え、台湾に帰ります。

初めて指宿に来た時、魚見岳展望台に行き、砂の道で陸とつながっている知林ヶ島や空と海の青さ、日差しのまぶしさに感動しました。

指宿は、私の地元の台湾とは異なり、高いビルがあまりなく、花と緑がたくさんあり、「自然に恵まれているまちなあ」と、生活の中で強く思うようになりました。

仕事では、修学旅行生の受け入れの手伝いで、初めてカツオをさばく様子を見て、学生たちと同じようにワクワクしました。ボランティアとしていぶすき菜の花マラソンの立哨を手伝った時は、たくさんのランナーが一斉に走る姿に驚かされました。職場では、知らないことやいろいろな日本語などを教えてもらい、とても勉強になりました。

プライベートでは、焼酎を飲みながら鹿児島弁を学ん

だほか、餅つきや初日の出、初詣など、日本のお正月を初めて体験しました。また、野菜のお裾分けをもらったり、何か困ったことはないかと声を掛けてもらったり、指宿の人の温かさが本当にうれしかったです。

新型コロナウイルス感染症の影響で、楽しみにしていたイベントに参加できず、残念な気持ちもありますが、指宿での経験や学んだことなどを生かして台湾でも頑張ります！

11カ月の間、本当に多くの皆さんにお世話になりました。ありがとうございました。いつかまたお会いしましょう！またね～



大好きな池田湖で写真撮影



燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会の延期

今秋、鹿児島県で開催予定の第75回国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」、第20回全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動かごしま大会」は、鹿児島県などの4者協議の結果、選手や監督、観客など約80万人の来場に伴う新型コロナウイルス感染症拡大リスクなどを理由に、延期すると発表されました。両大会の具体的な開催時期は、引き続き、調整・検討を行います。

本市開催競技ゲートボールの魅力を紹介します。

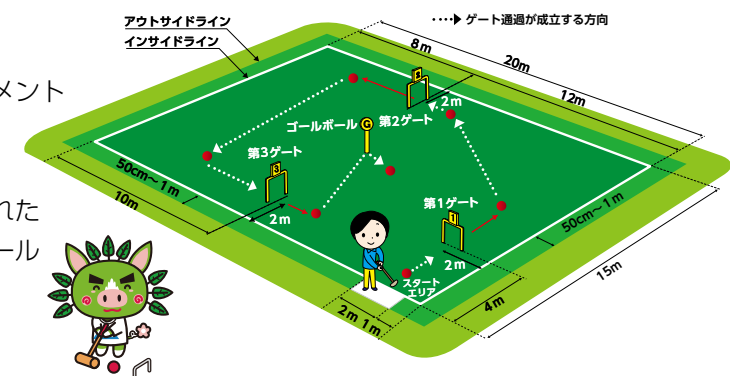
ゲートボールってどんなスポーツ？

▶試合形式／5人対5人のチーム対抗戦

（かごしま国体では、男女別に予選リーグと決勝トーナメント戦が行われ、5人全員が早く上がったチームの勝ち）

▶試合時間／1試合は30分間

▶競技方法／T字型のスティックでボールを打ち、設置された3つのゲート（第1～第3）を通過させ、コート中央のゴールボールに当てて上ることを競う



見どころ

①戦略型スポーツ

「ゲート通過」や「上がり」を競うだけでなく、1打ごとに変化するボールの配置を読み、別のボールに当たる「タッチ」や、タッチしたボールを移動させる「スパーク」などのチームプレーによるボールの連携が勝敗の鍵です。

②ユニバーサルスポーツ

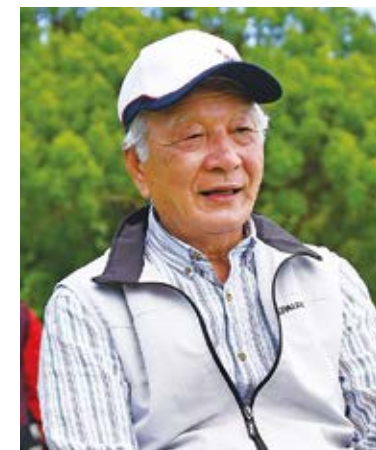
年齢や性別などの違いに関係なく、同世代や世代を超え、子ども対大人の対戦などいろいろな交流が楽しめます。

③インターナショナルスポーツ

日本生まれのスポーツですが、国内だけでなく海外にも普及し、アジアを中心に50を超える国や地域で親しまれています。4年に一度、世界一を決める国際大会も行われます。



かごしま国体に向けて準備状況などを聞きました！



指宿地区ゲートボール連絡協議会
うちその こういち 会長（天神下）

Q1 ゲートボールを始めたきっかけは？

A1 母がプレーしていたのをきっかけに始め、30年近くがたちます。
普段は、指宿地区ゲートボール連絡協議会の仲間と練習しています。最初はルールや試合中の駆け引きなど難しかったですが、経験者と一緒にプレーすることで、その奥深さが分かりました。

Q2 指宿地区ゲートボール連絡協議会の現状は？

A2 現在会員数は約120人です。高齢化が進み会員数も減少傾向のため、若手会員の育成や学校などで普及活動なども行っていきます。

Q3 かごしま国体の準備状況は？

A3 大会冊子の作成や記念品の選定など、県の協会などと協力しながら、心のこもったおもてなしの準備をしています。ゲートボール競技は芝の状態が大切です。最高のコンディションでお迎えしたいです。審判員の養成や編成作業を進めていきます。

Q4 かごしま国体への期待は？

A4 高いレベルの試合を多くの人が見て、ゲートボールに興味を持ってもらいたいです。

☎ 燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会指宿市実行委員会事務局
（ふれあいプラザなのはな館内） ☎ 1014